

2024 年度 学校法人 三幸学園 辻学園栄養専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「全体会議」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「未来デザインプログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック(アプリ版)」に記し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 2024 年度重点施策振り返り

学生指導の目標と学校運営のありかたを重点強化ポイントとして取り組みを実施した。

ただ、単年での目標到達、解決に至る内容でもなく、継続して対応すべき課題であるという認識に至った。

(2) 重点強化ポイント

業界で通用する人材の育成 ～マナー教育を丁寧に実施し、習慣化させる～

- ① マナー教育を丁寧に実施し、習慣化する(あいさつ、リアクション(返事)の強化)
- ② 「自ら考え自ら行動する」機会の強化
- ③ 夢・目標を叶えるための「サポート充実」の継続

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学園としての理念・学校目標・育成人材像を毎年4月に開催するスタートアッププログラムから習得できるように働きかけている。2024年度保護者会については、昨年同様にオンデマンドにて実施した。ただ、視聴者数が低迷しており、学校と保護者との連携は担任対応にて実施できているが、教育理念の理解度の向上が課題である。

② 今後の改善方策

- ・ホームルームや日々の指導、また「未来デザインプログラム」授業において、良き社会人とは何かということを理解、行動できるように継続指導を行う。また、学校全体としての取り組みとして、クラスの学びの在り方を学習するプログラム（クラススタンダード）を実施、担任と学生による一体的な理念体得を実施する。
- ・担任は、入学後や進級後等の早い時期において面談を通して、生徒の抱える課題を把握し、サポートしつつ、自ら克服できるような機会を設けていく。保護者へ担任から学校生活状況をタイムリーに連携するツールとして「スクリレ」を導入した。
- ・生徒の将来に向けて協力関係の構築、生徒育成をより強固にすることを目的に、今後も継続して実施する。

③ 特記事項

三幸学園のビジョンをふまえ、辻学園栄養専門学校におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定している。また、育成人材方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、社会の求める「調理のできる栄養士」の輩出を目指している。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

業務の効率化に向けて、情報処理速度と勤怠管理のバランスが重要。また、自己目標の設定、それに対する自己業務マネジメント力の向上が課題である。

② 今後の改善方策

様々な校務(学校運営に必要な業務)を担当、互いに理解することにより、学校運営に寄与していることを意識させる。担当したことのない校務でも興味を持つこと、また、なぜそれが必要であるか理解することも重要な位置づけである。また、互いに協業することで、より効率的に結果が出る働き方であることを意識させる。中途採用した場合においても、教員としてのニーズに応えられるように研修を重ねることは重要である。

③ 特記事項

校務の透明化、共有化が働き方の質向上に繋がることを意識して、組織的な改善に繋げている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

ICT 化が進み、教育の効率化が進む一方、生徒が自ら考え、行動する力を求められている。一方で、読み書きのような基礎学力が伴わない生徒も多く見受け、特に返事、挨拶といった基本的な社会人としてのマナーが習得できていないことが目立つ。

また、周囲の人間関係などの環境に左右される生徒が多く見られ、課外研修を通じて対応している。学年進級時において、クラス替えにより、これらを再構築する必要があることも課題である。

② 今後の改善方策

授業にて使用する各種アプリなどのレクチャーは適宜指導できている。社会人基礎力向上に向けて、ビジネスマナー授業にて指導、また、平素の生徒と教員の関わりの中でも社会性が向上できるように対応している。また、2025 年度は卒業生を講師に迎え「学び教室」を開催し、在校生の基礎学力向上に寄与する。

③ 特記事項

継続してイオンリテール株式会社様、大起水産株式会社様との産学連携商品開発を行った。お弁当、惣菜、お寿司と幅広く開発に関わり、消費者目線、低迷する消費の中、どのようにニーズを掘り起こすかを勉強する機会を得ることができ、教育的効果を高めることができた。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

生徒に対して個々の細やかな対応が求められる年度であった。人間関係の構築に難しさを感じる生徒も多くいた。

チーム担任制を実施し、様々な視点での生徒状況の把握と休退学防止を図った。卒業後の職業イメージについては、就職活動をせず、安易に楽な働き方を希望する生徒も見受けられる。将来設計を含め生徒自身のこれからを考えるような指導力を教員が持つことが課題。

② 今後の改善方策

退学率低減に向けて、教員が様々な生徒に関わり、様々な学校生活の楽しさ、そして将来の仕事の魅力を伝えていくことが重要。業界内就職向上に向けても、いかにして魅力のある仕事であることを注力したい。

③ 特記事項

退学率 2024 年度 5.2% / 2023 年度 5.2%

就職率 2024 年度 99.3% / 2023 年度 99.3% *就職希望者としての数値

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

進路・就職の希望調査を早期に実施する事により、本人の希望に沿った対応ができています。

ただ、業界内であっても細やかな就業希望を申告する学生も少なからず見受けるようになり、対応が必要である。

また、「コミュニケーションサポートルーム」とさらに「フリースペース」を設置開放することにより、生徒の心の安定を図っている。別途、保護者との連携は担任を通じて継続実施する。

② 今後の改善方策

様々な環境を過ごされた生徒の今迄の状況を把握するためにも、早期の生徒面談は必須であるが、担任も制約ある時間の中、計画的な対応に追われている。

チーム担任制のメリットを生かし、生徒が相談しやすい環境を提供している。高専連携については姉妹校より始めているが、他の高校などにおいても状況に応じて以前在籍した高校へ情報提供を受けるなどの対応は必要。

卒業した生徒への連絡は同窓会 LINE を中心に実施しているが、LINE の運営開始以前の卒業生への拡散が大きな課題となっている。現状は、都度、機会を見ては促すに留まっている。

③ 特記事項

同窓会については LINE などの利用を促してはいるが、卒業前に登録の促しが課題。

学内への卒業生の出入りを頻繁にいただければ、就職支援などのサポートも期待できるのではないかな。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

施設の老朽化に伴い、教育機器の修繕、入れ替えの必要性が課題となった。また、校外実習の早期受け入れ態勢の整備を実施、海外研修については、集団渡航する前のレクチャーが課題である。

② 今後の改善方策

施設について、全館 LED 化を実施。また、2025 度は給食管理施設における座学兼試食スペースの教室の全面改装を実施した。教育機器に関しては、適宜必要に応じて入れ替え、または購入を実施している。ただ、各研修については実施前に目的や注意点など事前勉強会を実施、事前準備を適切に行う事が課題である。

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集時、職業の魅力、学校の魅力を先にイメージしてもらい、その中で、本学の学びの楽しさを伝えるよう心掛けている。

また、栄養士資格に関する学びのみならず、年間行事など、様々な学外での取り組みや学びについて事前に話すことにより主体的に取り組むことや、今迄体験したことのない集団生活での学びがあることを全教員が伝えるようになること、生徒に伝わる事が課題である。

② 今後の改善方策

募集活動時、職業の魅力、年間行事など、その時期における学校生活の過ごし方を伝え、集団行動が難しい。学生に対し、アドバイス、出来得る対応についても事前説明を行い、入学後のギャップが生じないように務める。

③ 特記事項

自身の学力の特徴を把握させ、また本校も把握するために、入学前に基礎学力テストを実施している。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

関係法令の遵守と適正な運営を心掛けて運営する。特に個人情報の取り扱いは細心の注意を払い、運営に支障をきたくことがないよう社内規定遵守を徹底する。

② 今後の改善方策

引き続き、社内規定の遵守を促す。規定改正の際、全教員の会議にて全員が共有できるように務める。

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

能登半島震災後、現地へバスにて移動して炊き出しを実施した。8 月、心臓啓発ボランティアの啓発イベントに参加した。

① 今後の改善方策

地域貢献として公開講座の実施には至っていない。2025 年度、同窓会においては地域貢献できるイベントに参加する予定である。

② 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ① 一般的な社会規範である挨拶、返事などができない生徒がさらに多く見受けられるようになった。また、基礎的な学力不足を感じる。良き社会人育成という観点にて指導していきたい。
- ② 教育に関して現場との状況と差異が無いのか、設備のみならず、技術水準なども含め、卒業時に不利益にならないよう、情報交換、鋭意教育水準の向上に務めたい。
- ③ 卒業生への繋がりを現教職員からアプローチするように投げかける。特に同窓会において、卒業後の年数と比例して参加率が低い。まずは、繋がりを作るように務める。
- ④ 業界の仕事の魅力はどこにあるのか、様々なキャリアのある教員からホームルームなども利用して都度生徒へ伝える機会を増やし、働く動機の向上に務める。

以上